

妙法尼御返事

弘安元年五月一日 五七歳

干飯ほしいい一斗と・古酒一筒角 粽・ちまき青 麩・あうざし筍・たかんな方々の物送り給びて候。草にさける花、木の皮を香として仏に奉る人、靈鷲山りょうじゆせんに参らざるはなし。況んや民いわのほね骨をくだけの白米、人の血をしぼれるが如くなるふる古 酒だけを、仏・法華經にまいらせ給へる女人の成仏得道疑ふべしや。

五月一日

日 蓮 花 押

妙法尼御返事

日月は地におち須弥山しゆみせんはくづるとも、彼の女人仏に成らせ給はん事疑ひなし。あらたのもしや、たのもしや。